

市民の「健口」を守る 守口市歯科医師会

一般社団法人守口市歯科医師会
会長 歯科医師 村橋 慶宣



健康はお口からと言われることから、「健口」という言葉が使われます。「市民の「健口」を守る、守口市歯科医師会」として市民の口腔保健の向上を目指し健康維持の一翼を担うよう協力していききたいと思います。

行政と協力し幅広く市民の健康に貢献しています

守口市歯科医師会は、市民が安心して最適な歯科治療を受けられるように会員の診療所をサポートするだけでなく、行政と協力しながら幅広く市民のお口の健康維持に貢献しています。市民保健センターで市と協力し、「休日応急歯科診療所」や障害者のための歯科診療所「あおば歯科診療所」を運営しています。

守口市歯科医師会の会員は守口市立の園の歯科園医、学校の歯科校医に委嘱されており、学校歯科健診や歯みがき指導などの学校歯科保健活動に従事しています。また、市が行っている妊婦、乳幼児、成人歯科健診、訪問健康

診査(歯科)などの各種歯科健診やいろいろな市の口腔保健向上の啓発事業にも協力し、出務しています。

市民の皆さんへ
お口の健康を守ることが、からだ全てを大事にすることに繋がります。定期的に健診を受けて、お口の中の状態を健康に保ちましょう。



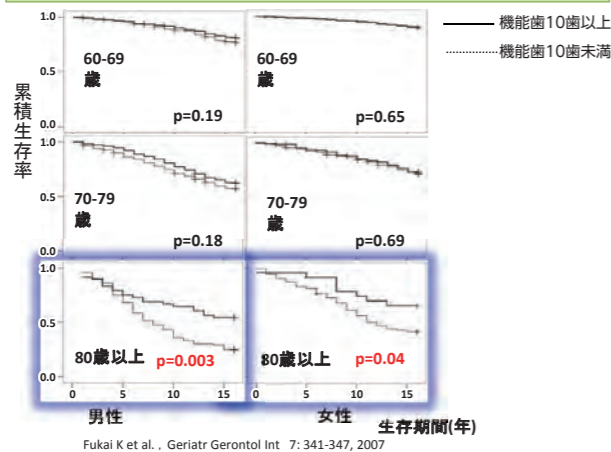
健康寿命を延ばすために！

日々の生活に欠かすことができない「呼吸」「食事」「会話」などの役割を果たすお口の健康は、からだの健康と密接に関係しています。お口の機能(口腔機能)について意識して見直すことで、健康寿命を延ばしましょう。

口腔保健の重要性

- ① 全身の健康との関連
歯や歯ぐきの病気が他の病気の原因になったり症状を悪化させることがあります。いろいろな研究で明らかになっています。
- ② 残存歯数と寿命との関連
歯の本数が多いほど寿命が長いこと(図1)、認知症になりにくいこと(図2)、転倒リスクが減ること(図3)や、寝たきりになる可能性が低くなること(図4)が統計上分かっています。
- ③ 医療費との関連
医療費に関わる調査から、定期的に歯科健診を受けている人や、残存歯数が多い人ほど、全身にかかわる医療費が少なくなることが分かってきました。
- ④ その他
定期的な口腔ケアを受けた患者さん(がん手術後の入院期間が短くなること、高齢者では肺炎のリスクが減少すること)などが明らかになっています。

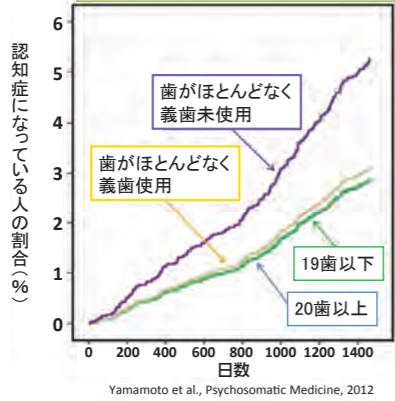
機能歯数(10歯未満/10歯以上)と生存曲線



(図1)

歯の本数が多いほど
生存年数が長い

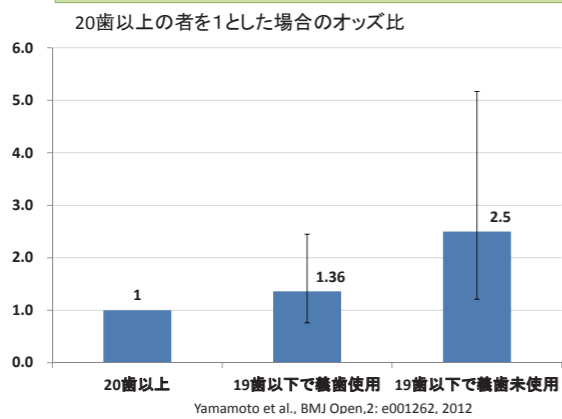
歯数・義歯使用と認知症発症との関係
(年齢、所得、BMI、治療中疾患、飲酒等の有無を調整済み)



(図2)

歯数が多いほど、また義歯による機能回復をするほど、認知症発症が少ない

歯数・義歯使用有無と転倒リスク
(性、年齢、追跡期間中の要介護認定、教育歴等を調整済み)



(図3)

歯を失い、義歯を使用してないと転倒のリスクが高まる

目指せ8020！！

「8020運動」とは、80歳において20本以上の歯を保つことを目標に、歯や歯ぐきの健康づくりを進める運動です。

20本以上の歯があれば、食生活にほぼ満足する事ができると言われており、「生涯自分の歯で食べる楽しみを味わえるように」との願いを込めてこの運動が始まりました。8020達成率は現在では51.2%で、2人に1人となりました。

8020達成者の皆さんを表彰します
対市内在住で8月31日現在80歳以上の人

申請 8月31日(木)までに市内歯科医院、または歯科医師会
TEL 06・60995・2888



平成28年度8020達成者表彰式の様子